

# 今こそ考えよう石木ダムと強制収用 ～未来を決めるのは私たち

石木ダム建設は市民の願い? —— 本当に佐世保市民は水に困っているのでしょうか。538 億円 (ダム本体 285 億円+関連事業費 253 億円) もの巨額 (税金+水道料金) を投じて 13 世帯約 60 人が暮らす土地が強制収用され、ダムが建設されようとしています。 “ 本当にダムは必要なの? ” “ 税金の使い方は自分たちで決めたいよね! ” 私たちの声で未来を変えることができます。一緒に考えてみませんか?

とき 2015年 **1月18日(日)** 13:30~16:30 (開場 13:00) **参加費** (映画鑑賞費) **500円**

ところ **アルカス SASEBO** 4F 中ホール  
【定員 500名】

JR・MR「佐世保」駅より徒歩5分/市営バス・西肥バス「戸尾町」すぐ (長崎県佐世保市三浦町 2-3)



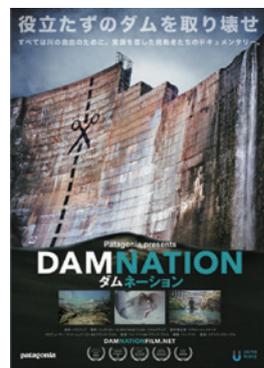
© 川島 浩一

プログラム (予定)

## — 第1部 —

### ● 映画上映 『ダムネーション』

提供: パタゴニア  
配給: ユナイテッドピープル



詳細は裏面をご覧ください

## — 第2部 —

- 講演 『石木ダムを考えることは私たちの暮らしを考えること』 (馬奈木昭雄 弁護士)
- レポート 『ここが変です。佐世保の利水と川棚の治水』 (石木ダム対策弁護団)
- 石木ダム建設予定地こうばるからのメッセージ

閉会后、アルカス SASEBO から島瀬公園までパレードします!



● 主催 / 「今こそ考えよう石木ダム」実行委員会

● お問い合わせ / Tel : 090-6171-5810 E-mail : michi30@hyper.ocn.ne.jp (石木川まもり隊・松本)

## 公共事業と私たちの暮らしを考える佐世保大集会へのお誘い

「石木ダムは佐世保市民の願い」というキャッチフレーズを市内のあちこちで見かけますが、それは本当でしょうか？

県と佐世保市は2014年、石木ダムを建設するために反対地権者の農地や宅地を収用する手続きに入りました。そこには13世帯約60人の人々が暮らしています。このまま手続きが進めば、いずれは強制収用となり、行政代執行による家の取り壊しなどがおこなわれることでしょう。しかし、これほど多くの人々の財産権や生活権を侵害して公共事業を強行した事例は日本中どこにもありません。

私たちは本当に石木ダムの実現を願っているのか、今こそ問われています。大型公共事業を決めるのは行政ではなく、私たち市民自身です。しかし残念ながら、私たちはその必要性を判断するための十分な情報を得ていません。そのコストがどれほど私たちの暮らしに影響するのかもよくわかりません。

そこで、公共事業やダム問題に詳しい弁護士の先生方のお話を聴く機会を企画しました。ぜひ一緒に耳を傾けてみませんか。

そして、石木ダムについて考える前に、そもそもダムとはどういうものなのか？川や流域の生物にどういった影響を及ぼしているのか、それを知る最適な映画『ダムネーション』を上映します。これはアメリカのドキュメンタリー映画ですが、2014年11月公開されるや日本でも多くの観客を魅了し続けています。その映像美と熱いメッセージがユーモアと共に伝わってくるからでしょう。

この素晴らしい映画をまずは観て、それから石木ダムについてじっくり考えてみましょう！



提供：パタゴニア/制作：シュテッカー・エコロジカル&フェルト・ソウルメディア/製作責任者：イヴォン・シュイナード/プロデューサー：マット・シュテッカー&トラヴィス・ラメル/監督：ベン・ナイト&トラヴィス・ラメル/編集：ベン・ナイト/アソシエイトプロデューサー：ペーダ・カルフーン/企画：マット・シュテッカー&イヴォン・シュイナード/配給：ユナイテッドピープル/87分/アメリカ/英語/2014年



企画&プロデューサー  
マット・シュテッカーさんと  
実行委員の  
状態のスリーショット!!

### メッセージ

ムダなダムを建設して自然を壊すことではなく、ムダなダムを壊して自然に戻すこと。それが今後のダム事業の主流になつてほしい。映画『ダムネーション』を観ると、その夢が実現可能なものであることがわかる。佐藤潤一（国際環境NPOグリーンピース・ジャパン事務局長）

かつてはダムを「成長と豊かさ」の象徴と考えていたが、今では多くの人が、ダムを壊して取り戻す自然な河の方が「豊か」に感じるようになった。移ろったのではなく、成熟したのだ。さて日本は、未だに何百ものダムが計画され、次々に作られ、未だに「ダムネーション」を脱却できない。そうした日本からの転換のヒントがこの映画にはあると思う。

飯田哲也  
（SEEP環境エネルギー政策研究所所長）

# DAMNATION

## ダムネーション

<http://damnationfilm.net/>

公式サイトより

### 破壊すべきダムがあるかぎり “ダムバスター”は挑戦し続ける

アメリカ全土につくられた7万5千基のダム。それらの多くは、川を変貌させ、魚を絶滅させ、それにもかかわらず期待される発電・灌漑・洪水防止のいずれにおいても低い価値しか提供していない。むしろダムの維持には高い経済的コストもかかっている。そんな負の面ばかりのダムを「撤去」する選択が、アメリカでは現実になってきた。だが「ダム撤去」が当たり前になるようになるまでには、「クレイジー」と言われながらも川の自由を求め続けてきた人びとの挑戦があった。彼らのエネルギーにより「爆破」が起こるドキュメンタリー。

### 自然の良さは人間が何もしなくてもいいこと。 ただそのままにしておけばいい。

地球の血管にも例えられる川。ダムが及ぼす影響は、私たち生き物すべてに及ぶ。ダムが撤去された時、川は解放され、みずから元の姿に回復していく。本作品が映し出す川の生命力と美しさは、人間も自然の一部なのだということを改めて気づかせてくれる。そして、技術により自然を征服してきた過去と決別し、新しい未来をつくりだす希望の光を見せてくれる。製作責任者はパタゴニア創業者のイヴォン・シュイナード。共同プロデューサーは生態学者で水中写真家のマット・シュテッカー。